

広報

# もがみ

平成23年

2011

No.722

5月

## ■ 今月の主な内容

東日本大震災 P.2

アスパラガス・ニラの播種作業 P.4

まちの話題 P.6

ふるさと日記 P.7

結石「再発予防から治療まで」 P.8

建設課からのお知らせ P.10

▶ 今月の納税は、**軽自動車税**と**固定資産税第1期**です。

▶ 6月1日(水)～10日(金)は、**飲酒運転撲滅広報強化旬間**です

※次回の年金相談日は6月14日(火)です。

間違っても手を叩いちゃいけないよ／新庄地区春季サッカーフェスティバル (2ページに関連記事)

発行／山形県最上町総務課まちづくり推進室 編集／広報もがみ編集委員会



## リフレッシュプランの利用状況

4月22日から5月14日まで計1,057人

単位:人

	南三陸町	石巻市	大船渡市
赤倉温泉	166	341	28
瀬見温泉	199	187	9
大堀温泉	60	67	—

## 東日本大震災 東北の一員としての取り組み

東北地方太平洋沖地震で被災した南三陸町・石巻市・大船渡市のみなさんに対し、最上町の温泉に入り少しでも元気になってもらおうと企画されたリフレッシュプラン。このプランは、町と町観光協会が協力して行なったもので、利用者は、1000人を超えました。

### リフレッシュプランの目的

山形県の東の玄関口でもある当町では、「東日本大震災の復興へ協力するためには町自体が元気であればならない」を念頭に町内経済の活性化にむけて、公共事業の早期発注、各行事の再開、相談窓口の設置などの対策を講じています。

4月22日から始まった「リフレッシュプラン」は、被災された方を元気にすることと当町の経済活性化を目的にして企画したものです。リフレッシュプランは、宮城県の大船渡市の3市町に避難されている方々を町内の温泉旅館（2泊3日6食付）に無料で招待したものです。当初、1000人ほどの利用者を見込んでおり、約一月でその人数に達しました（表1）。

利用したみなさんに話を聞くと、「ゆっくりお風呂に入れて嬉しかった」「家族一緒にくつろげたのは久しぶり。ありがたうございます」「また最上町に来たいと思います。最上

町のことは忘れません」と話してくれました。

### サッカーを通じた交流

5月3日と4日の両日、石巻市の開北FCと関係者のみなさんが、リフレッシュプランを利用し、最上中グラウンドを主会場にして行われた新庄地区春季サッカーフェスティバルに参加しました（写真1）。開北FCが今大会に参加したのは、最上中サッカー部が例年春休みに石巻市で開催される大会に参加し、合宿をして交流しているからです。参加者のみなさんに話を聞くと、「サッカーボールを蹴れたのは3月11日以来で、とても嬉しいです」と話してくれました。開北FCは、テクニックをもとめせず全戦全勝。見事な技術とチームワークを発揮しました。今回のサッカーフェスティバルでは、開北FCに高橋重美町長と最上カッブサッカー強化委員の柴田眞利委員長から義援金が手渡されました（写真2）。また、試合終了後には、黒



▲炊き出しには、住吉地区のお母さん方が手伝ってくれました。住吉地区では、公民館に避難している方々に自宅に避難している方々が輪番で炊き出しをしています

沢地区のみなさんと最上中サッカー部の保護者が協力し、子どもたちにあんこ餅やきなこ餅を振舞いました。子どもたちはとてもおいしそうに食べ、何回もおかわりをしていました(写真3)。開北FCの子どもたちは、餅つきや餅のきり方にも挑戦。黒澤餅搗唄保存会(もちまうた)の餅きりの早業をまねるもののサツカーとは違って大苦戦(写真4)。仲間や保護者のみなさんに笑顔がこぼれ楽しい一日になりました。

### 息の長い支援を

5月10日、立小路の夢蛸の会と黒沢地区のみなさんが、4月に夢蛸の会が夕食の炊き出しに訪ねた気仙沼

市の本吉地区で、再度炊き出しを行いました。

夢蛸の会は、松林寺(下小路)の三部義道住職が参加するボランティアグループ「公益法人シャランティ国際ボランティア会」を通じて炊き出しの支援を行なっています。

今回のメニューは、炊き込みご飯とイワナの塩焼き、鮭のザツパ汁、コゴミ、漬物です。みなさんおいしそうに食べてくれました。夢蛸の会では、息の長い支援も考えており、被災地が復興するまで協力していきたいと考えています。

### 今いる場所で自分たちができること

永井医院の永井俊一院長が、被災地から避難された方々を診療しました。

永井院長は、当町に避難されたみなさんが体調をくずしていないか、また不安をかかえていないかと考え、3月22日に瀬見温泉と赤倉温泉へと出向き、避難されている方々の健康状態について話を聞き、風邪の症状や持病のある方へ薬などを処方しました。永井院長に話をうかがうと、「町と最上病院と連携し、慣れない避難所生活のなかで抱える不安の解消に少しでも手助けできれば」と、協力してくれた経緯を話してくれました。

## 地震対策本部からのお知らせ

### ◇義援金について

みなさんから寄せられた義援金は、5月13日現在で1020万5497円となっております。

この義援金は、赤い羽根共同募金(中央共同募金会)を通し、被災地へ届けられているほか、直接大船渡市(旧三陸町)へ渡してほしいと依頼された義援金は、直接大船渡市へ届けています。また、「町に避難された方のために役立ててほしい」と義援金を町に届けられた方もいます。

### ◇放射性物質について

県は福島第一原子力発電所の事故を受け、県内の各自治体で放射性物質の調査を行いました。4月25日現在、当町の地上50cmと地上1m付近の放射性物質は、ともに0.11マイクロシーベルト/hで文部科学省が福島県の校庭等において活動を制限するのが適当と示した水準の3.8マイクロシーベルト/hを大きく下回っています(山形県ホームページより抜粋)。

### ◇避難されているみなさんへ

宮城県や福島県から避難されているみなさんに対し、両県から本町に問い合わせがある場合があります。お手数ですが、町内の親戚等に避難し、最上町地震対策本部に連絡をとられていない方は、左記までご連絡ください。

### ○最上町地震対策本部

窓口 役場総務課 TEL 43-2111

## 災害ボランティア活動支援制度のご案内



全国の47都道府県共同募金会では、「災害支援制度」(赤い羽根共同募金 災害ボランティア・市民活動支援制度)により、被災地において被災された方々の支援・救援活動を行うNPO、ボランティアグループ及び民間の災害ボランティアセンターなどへ活動資金の助成を行なっています。資金の助成を受けたい団体等の関係者、また本制度について詳しくお知りになりたい方は、最上町社会福祉協議会にお問い合わせください。資金を受ける条件や支援する額は中央共同募金会配分委員会の審査により決定されます。

○問い合わせ先 最上町社会福祉協議会 (TEL43-3180)

## 復興の願いを込めた格天井絵

吉田武美さん(新田)

4月17日、吉田さんの絵5枚が富山馬頭観音堂外陣の格天井に奉納されました。

それぞれの絵には、町の獣「かもしか」「町の鳥「山鳥」、町の木「梅」、町の花「りんどう」が色彩豊かに描かれ、もう一点の「神馬」は、躍動感があふれ力強さが伝わってきました。格天井絵の奉納には、先の東北地方太平洋沖地震で亡くなられた方々のご冥福と被災地の復興への想いも込められているとのこと。



## 農業にも雇用は必要

佐藤義男さん(沢原)



5月10日、農業経営改善計画認定書交付式が役場で行われ、佐藤さんが再認定されました。

佐藤さんの経営改善計画の認定は今回で3回目、初めて認定されたのは10年前になります。

交付式で佐藤さんは、「アスパラガスに取り組み、家族で頑張っているが収穫期の負担が大きい。雇用労働を活用してからは、他の農作物にも気を使えるので助かっている」と述べました。

## 消防団協力事業所認定第2号

株式会社丸徳ふるせ

かねて申請のあった丸徳ふるせ(菅徳嘉代表取締役)が5月1日付で消防団協力事業所に認定されました。

5月12日、町長室で関係者が出席する中、認定書と消防団協力事業所のプレートが同社営業リーダーの菊池則男さんに手渡されました。菊池さんは、「日中の災害が発生した際の消防団活動に協力事業所として全面的に協力したい」と申請の経緯を話してくれました。



▲丸徳ふるせの菊池さん(中央)

## 流水型ダム(穴あきダム)が最良

「最上小国川ダム事業の検証に係る対応方針」の説明会

5月14日、県の「最上小国川ダム事業の検証に係る対応方針」の説明会が新庄市民文化会館で行われました。

この説明会は県が主催し、最上小国川の治水対策として流水型のダム(穴あきダム)が最良とする方針が地域住民に説明されました。説明会には、50人ほどが出席し、ダム案を最良と決めた経緯や評価などの説明に耳を傾けました。

県は、昨年9月から国の要請に基づいて最上小国川ダムの検証作業に着手。当町の赤倉温泉地区の特徴を踏まえ、流水型ダム、遊水地、放水路、河道改修を立案し、安全度やコスト、実現性や柔軟性環境への配慮など7つの評価項目から、総合的に「流水型ダム案が最良の治水対策案」としました。

その案を受け、国では、今後の治水対策のあり方に関する有識者会議で意見を聴いた後に、最終判断を行う予定です。